

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(2024.10.10)

文・写真:武田

日時: 2024(令和6)年10月10日(木) 9:30~14:30

気象: 晴

活動エリア: 45 林班に-03

活動内容: 地域環境保全

参加者(会員) 斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、当山清之 5名

<1984年の10月10日といえば東京オリンピック開幕>

団塊世代の思い出だが生々流転。今も山では枯木が倒れ、新しい木々が育っていく。そのお手伝い

<二週間前にはなかった倒木>



<枯木なので鋸が入り易い>



<今日の成果>

作業道北西斜面で10m×2m×5人=約0.05haで枯損木7本を除伐。除伐のルールとして、以前はCO2を吸収する幼木が育つよう陽射しを遮る高い広葉樹の除伐が勧められていたが、今では土砂崩れに繋がらぬよう、地面に根を張る成木は大事にとされ、保安林指定地も増えている。時代の流れだろう

<写真編>

<倒木を片付け、次の作業地へ>



<斜面の枯損木退治①>



<斜面の枯損木退治②>



<おまけ:丹波のステゴザウルス>



「本山寺山森林づくりの会」活動報告(2024.10.20)

文・写真；山國

気象：晴

活動エリア：44林班は

活動内容：地域環境保全

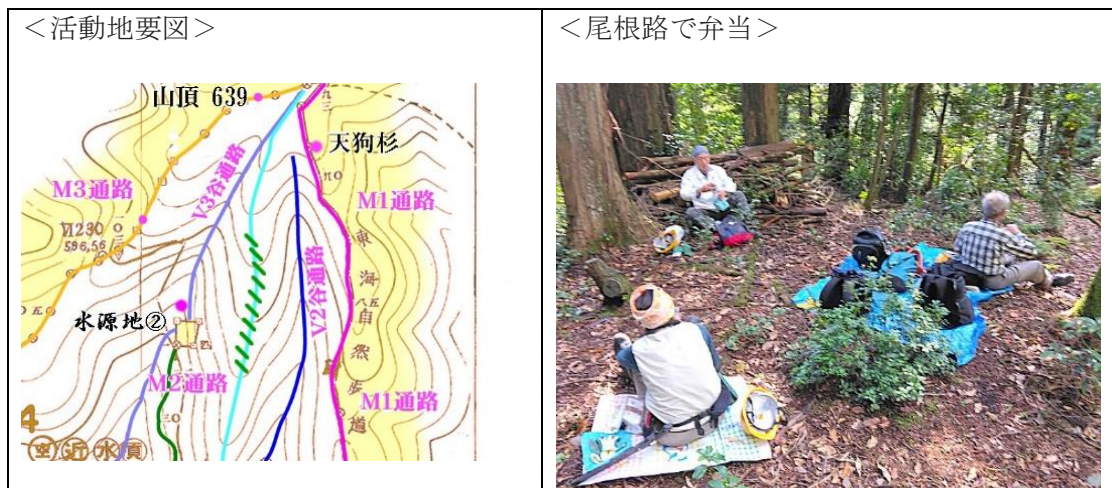
参加者(会員) 大本孝子、斧田一陽、倉谷邦雄、山國 4名

活動内容：尾根道の倒木・枯損木の処理、林床整理

<小人数ながら・・・>

暦は「霜始降(しもはじめてふる)」。少ない人数ではあるが、今日も注意して頑張ろう。

里の気温は 24℃と低温にはほど遠いが、山は気持ちの良い一日で、作業も尾根筋の整備だけだったので、比較的楽な一日(笑い)。



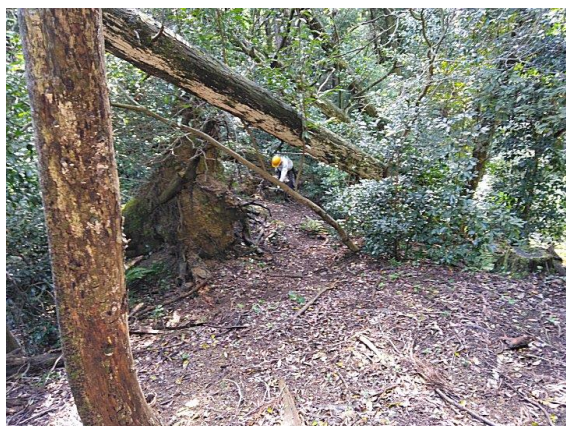
<今日の成果>

4×55m=0.022ha、倒木処理 10本 (たった四人でよく頑張った)

<作業風景>



<倒木で尾根筋にトンネルが>



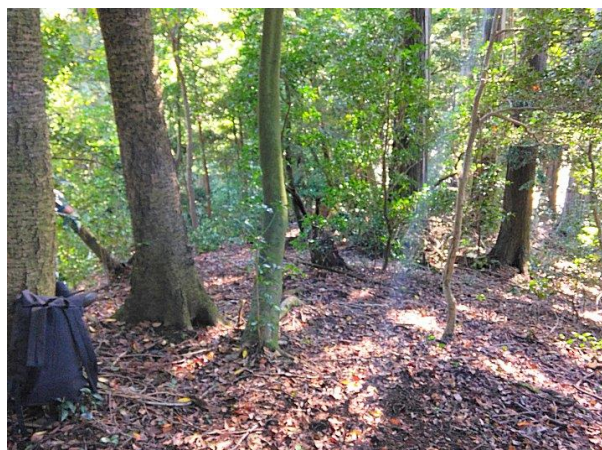
<左場所 倒木の下を綺麗に>



<鬼の角のような枯損木>



<鬼の角を退治>



<作業場所の南端、居座るマツの枯損木に苦戦>



<タイムオーバー、これで今日は give up>



「本山寺山森林づくりの会」活動報告(2024.10.31)

文；武田 写真；黒山

気 象：晴

活動エリア：44林班は、ろ

活動内容：地域環境保全

参加者(会員) 斧田一陽、倉谷邦雄、黒山泰弘、武田壽夫、当山清之 5名

活動内容：作業道・里道の整備

<10月31日といえば・・・>

ハロウィン、カボチャとオバケ達が町を飾る。精霊達のお出ましで、昔見たブロッケン現象を思い起こす。木々が繁る本山寺山では望むべくもない自然現象だが、さりとして元気な山の手入れは怠れない。今日は二組に別れ、作業道と里道の整備を進める。気温はやや低く、汗をかかない一日だった。

<高槻のハロウィン>



<御嶽山の妖怪(ブロッケン現象)>



<今日の成果>

山頂尾根から下る作業道は倉谷、黒山、当山の三氏が手掛け、幅3m×200mを整備、倒木20本を処理。標高450m付近の里道は斧田、武田の二人で約30mを拡幅し足元を均す。雨が土砂を運び谷側に落とすので、道は斜めに、しかも狭くなりがちである。

<作業風>

<尾根筋に整備した筈の作業道>



<作業道 随所に倒木や枯損木>



<手鋸で退治した枯損木>



<整備し直した作業道>



<里道は土砂が流出して道は狭く、斜めに>



<鍬で道を広げる>



<拡幅し、土を谷側に寄せた里道>



<森は生きている—実生がそこここに>



